

政策整理番号 34

評価シート(B)

対象年度	H16	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
------	-----	-------	--------	-------	----------

政策番号	4-10-2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備
------	--------	-----	---------------------

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備
------	---	-----	---------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効
概ね有効
課題有

<p>【政策評価指標達成状況から】 有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標名:高速道路IC40分間交通圏カバー率 達成度 A ・(達成状況の背景)気仙沼・本吉などの沿岸地域以外は高速道路が整備され、高速道路ネットワークと各地を結ぶ国道、県道、市町村道がある程度整備されているからである。 ・(達成度から見た有効性)指標値の向上率が極めて小さかったため、指標値は変わっていない。 ・指標名:道路の改良率 達成度 A ・(達成状況の背景)近年の道路改良率は9割を超えているため、伸びは緩やかである。 ・(達成度から見た有効性)平成16年度に設定した指標であり、現況値と目標値は同一である。 <p>【政策満足度から】 有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内は多くの地区に高速道路が整備され、ある程度満足されている状況にある。 ・緩やかながら着実な道路改良のために、施策満足度等は3年間変化がない。 <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】 有効</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の高速道路整備率を全国値と比較すると、平成17年4月現在で全国値6.2%に対し、県は6.8%と整備率はやや高い水準にある。 ・本県の道路改良率を全国値と比較すると、平成15年4月現在で全国値に対し約10%高い。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策評価指標達成度、政策満足度共に有効と判定される。 <p>【その他特記事項】</p>
--

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1		一般国道398号石巻バイパス	6		
2		一般国道346号鹿島台バイパス	7		
3		一般国道113号館矢間バイパス	8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切
概ね適切
課題有

<p>【国、市町村、民間団体との役割分担】 適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(国)直轄国道の整備 ・(県)補助国道、都道府県道の整備 ・(市町村)市町村道の整備 ・(民間団体)道路愛護団体やアドプト団体による地域住民活動、各道路建設同盟会等による建設促進活動 <p>【施策目的を踏まえた事業か】 適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路は社会基盤であり、国又は県市町等の地方公共団体が整備すべきものである。 <p>【事業間で重複や矛盾がないか】 適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種道路により、管理者は明確になっており、事業の分担は明確である。 <p>【社会経済情勢に適応した事業か】 適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業者はブランドゥシーのサイクルに則り、計画的な執行を図っている。 <p>【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) 概ね適切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先度が高くかい離はかなりあり、県民は現状に満足していないと感じている。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策目的、県の役割分担、事業体系、社会経済情勢、県民満足度調査の推移から判断して、本施策の事業設定は適切と判断する。
--

施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備
------	---	-----	---------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効 概ね有効 課題有

<p>【施策満足度から】有効 ・満足度は過去3回とも60とある程度満足である。</p> <p>【政策評価指標達成状況から】有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋 ・政策指標は横ばいしないし緩やかに上昇している。</p> <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効 ・陸運統計から、自動車の占めるシェアは戦後一貫して伸びており、輸送人では75%、輸送人キロは67%を占める(H14)。</p> <p>【業績指標推移から】概ね有効 ・道路整備には、相応の期間と事業費を要するため単年度では業績や成果が上がりにくい年度もある。</p> <p>【成果指標推移から】概ね有効 ・上記の理由から前年度に比べて指標の伸びは小さかった。</p>
<p>【総括】 ・道路の改良率は9割を超え、かなりの整備が終了している。このため、施策満足度、業績評価指標、成果指標に変化は見られない。しかし、優先度は1位であることから、県民は、なお整備を望んでいると言える。</p>

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的 概ね効率的 課題有

<p>【施策満足度 業績指標・成果指標】概ね有効 ・重視度、満足度、かい離度ともに3年間変化がない。大方の整備は終了しており、事業の成果が満足度の向上にはつながりにくい。</p> <p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】概ね有効 ・事業は複数年度にわたるため、政策評価指標は横ばいしないし緩やかに上昇している。</p> <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】概ね有効 ・各種統計の自動車の占めるシェアは一貫して伸びている、指標も緩やかに伸びている。</p> <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】概ね有効 ・事業は複数年にわたるため単年度では評価できない。</p>
<p>【総括】 ・道路事業は個別に見れば複数年事業であるため、事業の効率性は個別の事業計画やコスト縮減の積み上げとして全体で捉えるべきである。</p>

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

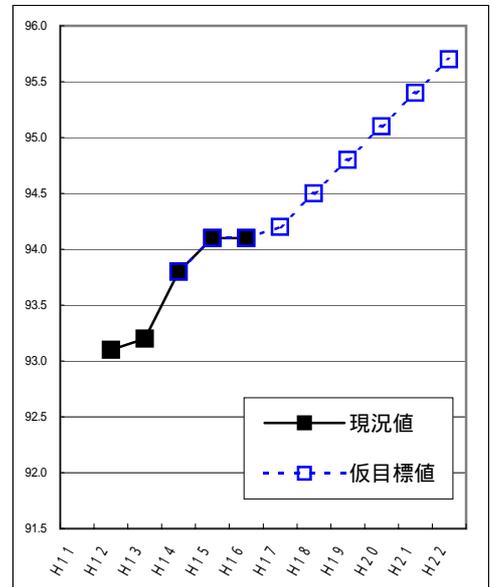
<p>・施策目的、県の役割分担、事業体系、社会経済情勢、県民満足度調査の推移から判断して、本施策の事業設定は適切と判断する。また道路事業は複数年にまたがる事業であるため、事業の効率性は個別の事業計画やコスト縮減の積み上げとして全体で捉えるべきである。</p>

対象年度	H16	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
政策番号	4-10-2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備		
施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
高速道路IC40分間交通圏カバー率		%						
目標値	難易度	H17	94.2		H22	95.7		
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H14		H12	H13	H14	H15	H16	
現況値 (達成度判定値)	93.8		93.1	93.2	93.8	94.1	94.1	
仮目標値					93.8	94.1	94.1	94.2
達成度					...	A	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

国内交流を進めるための交通基盤整備の指標としては、国内各地と連結する高速道路ICまでの行きやすさが適切と考えられる。一方、県においては道路計画において40分間交通圏構想があるため、これらを総合した高速道路IC40分間交通圏カバー率を作成、選定した。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A	-		80	80	80						
施策満足度 B	-		60	60	60							
かい離 A-B	-		20	20	20							

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
・達成度: A ・現況値は目標値を達成している。 ・H16年度は新たなICの供用が無かったことから、現況値に伸びは見られなかった。 ・今後H18年に新たなICが供用され、これにアクセスする国道、県道、市町村道が整備されないと、指標値の目に見えた向上は見込めない。	判定: ・高速道路の供用予定については、新たに桃生IC、桃生北IC、登米ICの供用年次が示される等着実に進捗している。一方本政策指標はICの開設に影響される度合いが大きく、指標値は段階的に変わることが予想されるが、正の相関関係にあるといえる。 相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

継続

要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]

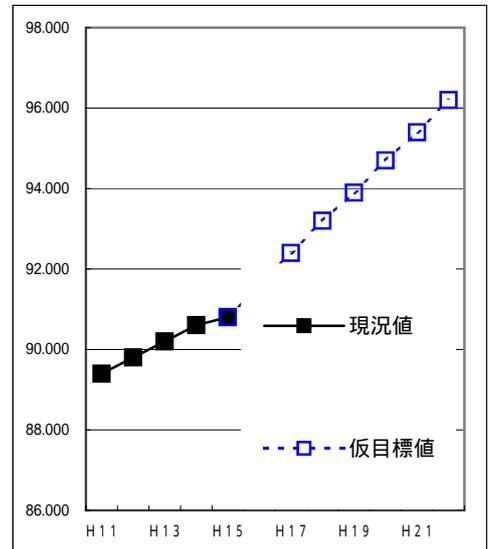
国内の交流機能を計る指標としては、全県内から国内交流の一翼を担う高速道路ICまでのアクセス性が適切と考えられる。また、それを数値的に表現するものとしては、全県内から高速道路ICへの自動車走行時間の短縮が図られる交通圏の拡大を示す数値がふさわしいと考えることから、高速道路IC40分間交通圏カバー率は指標として妥当なものとする。

対象年度	H16	作成部課室	土木部道路課	関係部課室	土木部都市計画課
政策番号	4-10-2	政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備		
施策番号	2	施策名	国道、県道、市町村道の整備		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
道路の改良率		%						
目標値	難易度	H17	92.4					
		H22	96.2					
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H14	H11	H12	H13	H14	H15		
現況値 (達成度判定値)	90.6	89.4	89.8	90.2	90.6	90.8		
仮目標値					90.6	90.8	91.6	92.4
達成度					...	A		

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・施策「国道、県道、市町村道の整備」を「一般道路の整備」ととらえれば、現在の指標である「高速道路IC40分間交通圏カバー率」は、国県道等の整備よりも、高速道路の整備率に大きく依存するものであるため、施策に対して直接的な指標であるとはいえない面がある。このため、より直接的に本施策の推進結果を表すものとして、「道路の改良率」を選定するものである。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A		-		80	80	80					
施策満足度 B		-		60	60	60						
かい離 A-B		-		20	20	20						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
達成度:A ・平成16年度に設定した指標値で、平成15年の現況値と仮目標値は同一である。 ・減少傾向にある道路事業費から、目標値達成は今後は難しい見込みである。	判定: ・施策の結果が指標値であるため正の相関にある。 相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]
 ・施策と政策評価指標はインプットとアウトプットであり直接の指標として妥当である。
 ・指標値は、近年の事業費削減のため達成は困難が予想される。

